



国府の子

2024(令和6)年度 最終号

学校教育目標

なかよく かしく たくましく

浜田市立国府小学校

文責:大石

令和6年度修了～みなさんお世話になりました～

本日修了式を行い、令和6年度が終了となりました。コロナ渦を経て、今年度は、計画した教育活動を当たり前のように実施することができた1年でした。子ども達は、「挑戦すること」「思いやりの気持ちをもつこと」「あいさつをすること」にしっかり取り組み、成長することができました。この1年、保護者の皆様、地域の皆様には、国府小の教育活動にご支援をいただきありがとうございました。新年度も皆さんと一緒に子どもたちを育てていきたいと思ひます。ご協力をよろしくお願いしします。

挑戦すること
思いやりの気持ちをもつこと
あいさつをすること

卒業式～6年生のみなさん卒業おめでとう～

18日(火)に、卒業式を行いました。今年度の卒業生(第10期)は39名です。当日、在校生は立派な態度で式に臨むとともに、呼びかけ、歌声で卒業生に感謝やお祝いの気持ちを届けることができました。卒業生にこの気持ちが伝わったことでしょう。そして、卒業生の堂々とした姿にこの6年間の成長を感じました。退場していく卒業生一人一人の中学校での活躍を願いつつ、拍手を送りました。



6年生を送る会～これまでありがとう～

6日(木)に、6年生を送る会を行いました。これまでお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えようと5年生が計画を立て、各学年で工夫して発表しました。感謝のメッセージにあわせて、歌やダンスの発表、全校クイズ、そして、なつかしのスライドショーなど盛りだくさんの会になりました。きっと6年生も喜んでくれたことでしょう。本会を計画した5年生のこれまでの頑張りが素晴らしかったです。温かい気持ちになるととても良い会でした。



学校評価～来年度の学校経営にいかしていきます～

領域	中期目標 3年度 の目標	短期目標 今年度の重点	目標 値	自 己 評 価					学校関係者評価	改 善 計 画		
				アンケート結果(%)								
				保護 者	評 価	児 童	評 価	職 員	評 価			
心 づ く り ・ ・ ・ な か よ く	1 居心地の良い 学校、学級づ くり	①自己指導能力の向上 ②身に付けた力のできる 能力の伸長 ③いじめ見逃しゼロ、不 登校対応		74.8	B	92.1	A	81.8	A	・児童の肯定回答率が高いこと から、子どもたちが楽しく、安心して 通える学校になっている。普段の授業 の様子を見ても、子どもたちの 表情がとてよい。一人一人の子 どもたちの様子を全職員で共有し てもらっている。	・今年度の取組は一定の評価を得たと考えている。来年度も引き続き、「みんながGOODの国府小学校」を目指す。	
	2 地域と連携、 協働の推進	①安全な登下校の継続		70.1	B	91.2	A	72.7	B (A)	・登下校時、元気よく挨拶ができる 児童が多い。安全な登下校について は、上級生が下級生を思いやっ ている姿も見かける。 ・ふるさと教育がとて充実している。 児童も保護者も地域とのつなが りを感じてもらっているように思 う。	・PTA生活環境部員による毎月の見守りの評価を子どもたちの安心安全な登下校につなげることができた。また、地域・保護者とも連携を図ることでき、活動内容についても周知できたと考えている。	
	3 ふるさと教育 の充実	①家庭・地域との付けた い力の共有 ②郷土愛の育成		92.5	A	95.6	A	81.8	A	○わらわ児童や保護者、地域と共有で、「地域 のよさ」に気付けるように、発言やふり返りの 内容を価値づけることができた。	・今後は、まちセンコーディネーターとさらに連携を図り、 学習で知り合った地域と子どもたちのつながりが続いてい くように仕掛けていきたい。	
学 び づ く り ・ ・ ・ か し こ く	1 主体的・対話 的で深い学び の実現	①授業改善 ②学び合う集団作りの 力の共有		71.0	B (A)	94.7	A	72.7	B (A)	○児童の評価が高いことから、授業中に調 べたり友達と話し合ったりする機会や時間が増 えていると考えられる。 ●職員の評価が低いのは、授業や指導の質 的な向上に願いが強いと感じる姿の表れである が、学年部や全体で授業について話したり、 考えたりする時間は少なかったと反省してい る。	・保護者、職員の評価より、児童の 評価が高いのは、とてよいこと である。これは子どもたちが、授業が 楽しいと感じている証拠でもある。 子どもたちの授業の様子を見る限 り、一人一人とて生き生きとして いる。先生方には、もつと自信を 持ってもらってほしい。 ・読み聞かせもよい取組である。一 方、情報活用教育能力の育成につ いて、保護者評価が低いことな っている。保護者も読書量が少ないのも 事実である。家庭でも子どもたち へ読書を促すことができている のでは、学校でも読書をたくさん借 られる仕組みを作ってもらえと ありがたい。	・児童が話したり、書いたりして伝え合うことが楽しいと感じ る学習活動(要約学習的な活動)を継続・発展させていく。 ・職員が自信をもって授業に取り組めるよう、授業や学習 について相談したり、とて計画や準備をするための機 会・時間(学年部会等)を確保する。
	2 情報活用教育 能力の育成	①図書館活用教育の充 実 ②一人一台端末の効果 的な活用		66.4	C (B)	86.1	A	70.5	B (A)	○授業や学校生活に必要とされるスキルアップを促すには、児童 も、職員も評価が低いのは、ICTで考えの共有や発表文書などに 活用したいのに十分できていないと感じているものと考えられ る。 ●タブレットを毎日または週末に持ち帰る環境や条件がまだ不十分 で、実現できていない。 ●教員を支援するため、家庭で使ってもらえないのは、ゲームや メディア機器などとの接点の時間が多かったのではないかと考 える。	・児童がタブレットを持ち帰る機会を増やすためには、メ ディア接触で生じる問題、接続環境を確保する問題、管理 (持ち帰る荷物の量)の問題、など市教委の指示を仰ぎな がら解決して、進めていく。 ・探究学習に必要な、情報の収集、整理、要約する力を 「総合的な学習の時間」の指導計画に位置付け、図書館 活用を軸として(学校図書と協力して)学習を進めていく。	・児童が話したり、書いたりして伝え合うことが楽しいと感じ る学習活動(要約学習的な活動)を継続・発展させていく。 ・職員が自信をもって授業に取り組めるよう、授業や学習 について相談したり、とて計画や準備をするための機 会・時間(学年部会等)を確保する。
	3 見通しをもた 家庭学習に取 組むための指 導	①家庭学習の習慣化		81.3	A (B)	94.3	A	72.7	B (A)	○児童は宿題をきちんとやっている。担当している。担任が日々点 検するなどきちんと取り組んでいる成果である。 ●職員の評価が低いのは、質的な内容や授業と の関連に満足できていないと考えられる。	・低学年を中心に、読書ノートの取組を継続するとともに、 親子読書など、家庭でも読書をするきっかけをつくる。 ・今年度の取組の成果を活かし、家庭学習の定着を図ると ともに高学年では、自分で課題を決めて取り組む「自主学 習」をすすめる。	
体 づ く り ・ ・ ・ た く ま し く	1 体力の向上	①楽しいと感じる運動や 遊びの充実		72.0	B (A)	78.4	B	63.6	C (A)	○校内持久走大会は3学期のため、マラソン カードや校内持久走の在り方などの成果課題 は今後考えていく。 ●朝活動のちよとして体操や「体づくり運動」 のメニューが学年によって異なっていた。	・校内持久走記録会、保護者の 関心も非常に高い。これを機会に、 保護者も一緒に取り組める 取組や仕掛けがあると、より興味 関心を持ってもらえるのではない か。元気アップカード、なわとび カード、持久走カード等もうまく活 用されており、子どもたちの運動意 欲が高められている。	・朝活動のちよとして体操や「体づくり運動」のメニューを 統一して取り組む。 ・なわとびカードやマラソンカードは来年度も活用してい く。マラソンカードについては、学校外での時間でも保護者 と連携して活用ができるように、カードの形を工夫する。
	2 基本的な生活 習慣の育成	①元気な心と体の自覚		83.2	A (B)	81.1	A	68.2	C (A)	○元気アップカードの実施や保健だよりなどの啓発 は、保護者向けに意識づけや情報提供となった。 ●保護者と児童に対し、教員の評価が低く、基本的な 生活習慣については、教員が正確に把握しにくいこと もあったのではないかと考 える。	・授業中の姿勢がよくなっている。 「こどもふくは」さんのモデル園 の掲示や先生方の声掛けの成果 である。 ・家庭でのメディア接触の時間が 心配である。メディア教育の一環 として、情報モラル教室を開催して いた。これを通して、子ども たちや保護者の意識も変わりつ つあるので、継続して実施してい てほしい。	・引き続き、元気アップカードの実施や保健だよりを通 して、啓発を行っていく。 ・元気アップカードがより効果的にできるよう、実施時期や 用紙の形式、実施方法などを検討していく。
	3 学習環境づく り	①学習に向かえる準備 ②姿勢づくり		75.7	B	85.9	A	72.7	B (A)	○姿勢「こどもふくは」さんのモデル園があったこ とで、全校で一貫した指導をすることができた。 ○昨年度同様、姿勢教室のようなイベントは、児 童のモチベーションも上がり、外部への啓発と なった。 ●チャイルド前着席も姿勢も学年によって差があ った。	・引き続き、「こどもふくは」さんのモデル園を掲示する。ま た、姿勢教室のようなイベントも継続して行っていく。 ・チャイルド前着席をどの程度まで統一して行うのか検討 していく。	
開 か れ た 学 校	1 学校からの情 報発信	①連絡システムの活用 ②HP・より・学校評価 の工夫		97.2	A			86.4	A	○保護者アンケート肯定回答については、昨年度 より増加した。 ●すぐるへの操作について、複数職員が配信でき るようにしたが、まだ十分に活用できていない状 況である。	・どの項目も評価が高い。これは 学校の努力の証であると考え止 めていきたい。学習成果発表 会など、子どもたちの様子を見 ることが出来る機会を上手に設 定していただいているのはありが たい。	・徐々にではあるが、すぐるを活用して情報発信等を行 う職員が増えつつある。経費削減の面からも、より積極 的に活用できるよう年度当初に配信方法について研修を行 う。 ・保護者にもすぐるへの活用について積極的にアナウンス
	2 社会に開かれ た教育課程 (計画)	①教育活動の目的、評 価の共有 ②教科等横断型の授業 の推進		94.4	A			95.5	A	○保護者、教職員ともに高評価をいただいている。 引き続き、学校からの情報提供や情報提供を積極 的に行っていく。	・地域でも「学校だより」を回覧し ているが、地域の多くの方がみな さん目に留めておられる。学校への 関心が非常に高い。	・今後は、学校運営協議会を効果的に機能させながら、学 校と家庭、地域が手を取り合っ て子どもを育てようという機 遇をより一層高めていきたい。
	1 学校の安全安 心	①交通安全、自然災害 等への対応 ②地域との連携、協働 の推進		96.3	A			86.4	A	○今年度2回目の児童引き渡し訓練を行ったが、 昨年度よりかなりスムーズな引き渡しとなった。 ●放課後見守り隊への連絡手段が課題である。	・「すぐる」での情報発信はとて もありがたい。時間変更等の連絡 もあり、とてタイムリーに情報 が把握できる。 ・登下校時はいよいよ、下校時の連絡 体制が課題である。地域として 考えていかなければならないこ ともある。 ・防災教育として、津波訓練と地 域と一緒に実施してみようか。	・防災教育の一環として、地域の自治組織や幼児教育施設、 民間等と連携した避難訓練が行えるよう年間計画 に位置付け、計画的に防災教育を実施していく。 ・見守り隊等への連絡体制は、地域の組織団体とも連携し ながらよりよい方法を生み出していく。
信 頼 さ れ る 学 校	2 タイムリーな 教育環境整備	①子ども達が生活する 場としての教育環境の 整備		86.0	A			86.4	A	○予算の範囲内で、必要な物品は購入することが できている。 ●経年劣化等を見越して、計画的な予算要求と予 算執行が必要である。	・校内の予算で購入が難しい物品については、市教委に 継続的に現状や予算要求を伝え、要望していく。	
★評価・・・肯定率80%以上→A(目標クリア) ・70%以上～80%未満→B ・70%未満→C 評価内の()内は、同一項目で昨年度と変化があった評価												

島根県読書ノートコンクール結果

最優秀 1年 大元真輝 最優秀 2年 井上紘太郎 優秀賞 3年 吉田結陽
優秀賞 3年 金川耀生 優良賞 2年 藤本蓮己

しまね小中学生新聞コンクール結果

優良賞 5年 野上 龍盛

島根県書初め展結果 (3年生のみ出品)

金 賞 上杉唯衣 中根芽結 西田智穂 平松理緒 又賀有彩

島根県学校生協書初め展結果 (4年生以上出品)

金賞 4年 皆尾えみか 4年 井上 侑大 5年 柳 信之介
5年 佐々木 葵 5年 湯浅 直花 5年 豊島 旬佑
6年 田邊 凜華 6年 和田 彩生